

『 楽しい学校(楽校)の創造をめざして 』

～NIEを活用し、言語活動の充実をめざす授業実践を通して～

I 研究の内容

1. 研究仮説

各教科等においてNIEを活用し、言語活動の充実をめざす授業実践を行うことによって、思考力・判断力・表現力が育まれ、楽しく進んで学ぶ児童が育成されるであろう。

2. 研究の具体的内容

- (1) どんな実践が効果的なのか、理論や先行研究を学び、研究を進める。
 - ・ 講師を招聘し、理論や先行研究の様子などを学んだ。
 - ・ 先進校の実践や文献、参加した研修会などの伝達をする学習会を行った。
- (2) 授業実践・授業研究へ取り組む。
 - ・ 授業研究はブロック研究を基盤にして進めた。ブロックより1名が全体に検証授業を提案し、全体会で協議を行った。指導・助言者を招いて、授業と研究内容について指導・助言をしていただいた。
 - ・ 検証授業をする学年以外も一人一実践として授業公開を行った。全員が参観し研究会を持ち相互の学習の機会とした。
- (3) 言語活動充実に向けた継続した取り組みを行う。
 - ・ 朝読書で、1年～6年生まで毎週火曜日は、新聞を読み、翌水曜日は、スクラップ（一言感想付き）に取り組んだ。
 - ・ スピーチ広場で新聞記事の話題を取り上げ、聴く話す活動をすすめた。
 - ・ 家庭への啓発を行い、親子読書に取り組んだ。
 - ・ 各学年の発達段階に応じ、授業や活動後に新聞づくりを行った。
- (4) その他
 - ・ Q-Uについて学習し、調査・分析を児童理解に役立てた。
 - ・ 教育課程説明会・各種研究会の還流報告会を行った。

II 成果と課題

(1) 関わって

- ・ 6月の検証授業では、義務教育課 副主幹・指導主事：深澤秀興先生、11月の検証授業では、峡東教育事務所主幹・指導主事：萩原徹先生を招聘して、授業の指導助言、本校の校内研究に関わる参考になるお話や資料を提供していただいた。
- ・ 8月には、日本新聞協会NIEアドバイザー 渡辺節子先生を招いて理論研究、事例研究を実施し、NIEの活用について具体的に学んだ。

(2) に関わって

- ・ 検証授業や一人一実践とも、本校の校内研究（N I Eの活用、言語活動の充実）にかかわる日頃の取り組みや成果が表れた授業を行うことができた。
- ・ 授業を実施・観察することによって見えてくることは多い。参観した授業に対し、意見や感想を交流することで、学び合うよい機会をつくることができた。

(3) に関わって

- ・ 朝読書で新聞を読むことやスクラップの取り組みにより、新聞に慣れ親しむという目的が達成された。
- ・ スピーチ広場でのN I Eの活用では、話題が広がり、社会に目を向けるよい機会となった。また、活発に質問や感想が出されるようになった。
- ・ 親子読書は毎年実施している。家庭への啓蒙ができ、親子での読書の話が広がり、読書の意欲が高まってきた。「継続は力なり」を感じる取り組みとなった。

(4) に関わって

- ・ Q-Uの結果を受けて、どのような学級づくりをしたらよいか、みんなで話し合い有意義な研究ができた。分析結果を学級指導や個の見取りに生かすことができた。
- ・ 各種研修会還流報告を行い、今後の教育活動に役立つ資料を提供してもらった。

III 成果物

(1) 検証授業指導案（ワークシート等も含む）

- 2年 生活科 育てた記録で新聞をつくる
「野菜新聞を完成させよう」 山田勝博
- 5年 社会科 記事をはり合わせて新聞を作る
「つくった新聞の“社説”を発表しよう」 野尻政彦

(2) 一人一実践授業指導案（ワークシート等も含む）

- 1年 生活科 みんなでくふうしてしんぶんをつくる
「むかしのあそびしんぶんをつくろう」 竹川由美子
- 3年 社会科 見たことや気づいたことをまとめる
「見直そう わたしたちの買い物～店を調べに行こう」 志村克人
- 3年スタディールーム 冬の行事に関心を持ち、それに関わる語句を新聞や広告から見つけ語いを増やす
国語科 「きせつの言葉 冬の楽しみ」 八巻恵子
- 4年 社会科 自分が作った新聞の内容を友だちにわかるように発表する
「ごみはどこへ」 湯本光子
- 6年 国語科 自分の考えたこと感じたことを自分の言葉で表現する
「新聞から選んだ写真の感想を俳句に表そう」 平塚すみり

(3) その他（主なもの）

- 学習会や検証授業に招聘した講師の方々にご提供いただいた、本校校内研究に関わる資料 (研究主任 竹川由美子)